

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向  
平成 29 年 6 月

○ 概要

(1) 平成 29 年 6 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 6,262 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）+3.6%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 9,050 円（伸び率+1.1%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,564 億円（伸び率+5.2%）、薬剤料が 4,687 億円（伸び率+3.0%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 767 億円（伸び率+13.5%）であった。（→P.4）

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方せん 1 枚当たり薬剤料 5,541 円（伸び率▲0.6%）を、処方せん 1 枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1 種類数 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.75 種類（伸び率▲0.7%）、23.6 日（伸び率+1.0%）、85 円（伸び率▲0.9%）であった。（→P.8,9）

(3) 薬剤料の多くを占める内服薬 3,834 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）+70 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 839 億円（伸び幅+17 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 11 中枢神経系用薬の 37 億円（総額 664 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 (→P.10~15)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,834 億円 (+70 億円)	21 循環器官用薬 (839 億円)	11 中枢神経系用薬 (664 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (557 億円)
0 歳以上 5 歳未満	32.9 億円 (▲2.3 億円)	44 アレルギー用薬 (14.2 億円)	61 抗生物質製剤 (7.7 億円)	22 呼吸器官用薬 (4.7 億円)
5 歳以上 15 歳未満	85.6 億円 (+0.7 億円)	44 アレルギー用薬 (32.0 億円)	11 中枢神経系用薬 (16.8 億円)	61 抗生物質製剤 (9.7 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,327 億円 (+13 億円)	11 中枢神経系用薬 (286 億円)	21 循環器官用薬 (252 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (205 億円)
65 歳以上 75 歳未満	957 億円 (▲8 億円)	21 循環器官用薬 (252 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (166 億円)	11 中枢神経系用薬 (114 億円)
75 歳以上	1,440 億円 (+67 億円)	21 循環器官用薬 (332 億円)	11 中枢神経系用薬 (247 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (182 億円)

(4) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 9,050 円（伸び率 +1.1%）で、最も高かったのは福井県（10,913 円（伸び率+2.9%））、最も低かったのは佐賀県（7,812 円（伸び率▲2.7%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは沖縄県（伸び率+3.6%）、最も低かったのは熊本県（伸び率▲2.7%）であった。（→P.27~28）

【後発医薬品薬剤料】 767 億円（伸び率：+13.5%、伸び幅：+91 億円）（→P.36~37）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） <sup>注</sup>	69.2%	+3.6%
薬剤料ベース	16.4%	+1.5%
後発品調剤率	67.3%	+1.9%
（参考）数量ベース（旧指標）	46.0%	+2.3%

注）〔後発医薬品の数量〕 / 〔〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕〕で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+13.5%	+24.4% (15 歳以上 20 歳未満)	+8.0% (60 歳以上 65 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	16.4%	17.2% (75 歳以上)	10.8% (10 歳以上 15 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~44）

年齢区分 (→P.38~44)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	677 億円 (+80 億円)	21 循環器官用薬 (192 億円)	23 消化器官用薬 (109 億円)	11 中枢神経系用薬 (79 億円)
0 歳以上 5 歳未満	5.9 億円 (+0.4 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.1 億円)	44 アレルギー用薬 (1.6 億円)	61 抗生物質製剤 (1.2 億円)
5 歳以上 15 歳未満	11.2 億円 (+1.5 億円)	44 アレルギー用薬 (5.5 億円)	61 抗生物質製剤 (2.3 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.6 億円)
15 歳以上 65 歳未満	224 億円 (+31 億円)	21 循環器官用薬 (54 億円)	11 中枢神経系用薬 (34 億円)	44 アレルギー用薬 (31 億円)
65 歳以上 75 歳未満	172 億円 (+16 億円)	21 循環器官用薬 (62 億円)	23 消化器官用薬 (27 億円)	33 血液・体液用薬 (19 億円)
75 歳以上	264 億円 (+31 億円)	21 循環器官用薬 (77 億円)	23 消化器官用薬 (51 億円)	11 中枢神経系用薬 (33 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,108 円	1,471 円（岩手県）	922 円（佐賀県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+10.8%	+15.2%（徳島県）	+7.3%（奈良県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	69.2%	80.5%（沖縄県）	59.9%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	16.4%	20.6%（鹿児島県）	13.5%（徳島県）
後発医薬品調剤率	67.3%	78.3%（沖縄県）	61.4%（徳島県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	46.0%	56.7%（沖縄県）	40.2%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成29年6月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。